

# 食物栄養学科学生の受験理由と学科選択に関する調査

山下晋平

(宇部フロンティア大学短期大学部 食物栄養学科)

Research about the motives of applying this college and the choice of  
department in food and nutrition course students

Shinpei Yamashita

(Department of Food and Nutrition, Ube Frontier College)

近年、学生の学力・資質の低下が問題となってきた。そのため、対応策を考えると共に、入学生が何を求めて本学科に入学してきたのかを明らかとするために、本学科の入学生に対して入学動機及び入学決定時期そして学科選択理由についての調査をおこなった。

本学科の入学動機としては、「資格・免許取得」や「教養を身に着けたい」等の理由が高い割合を示した一方で、「親や先生にすすめられたから」との回答が約4割見られた。学科選択の理由としては、「食べるのが好き」「料理することが好き」「食に関わる仕事がしたい」「資格が取れる」の4項目で100%と高かった。入学生が本学科で学びたい内容は、「免疫系」が最も多く、次いで「食品衛生」、「食品の機能性」の順に多く、本学科で行っている講義・実習内容に興味を持っていることが明らかとなった。

キーワード：食物栄養学科，新入生，受験理由，学科選択，栄養士

## 1. 緒言

近年、栄養士をとりまく環境は急速に変化してきており、専門性が高度化及び多様化してきている<sup>1)</sup>。それだけでなく、「特定検診・特定保健指導」などの施策が実施されており、栄養管理が医学・医療の一端を担うものとして評価されてきている<sup>1)</sup>。そのため、栄養士養成課程では、栄養士として必要な専門性の習得や能力の開発・スキルアップに加え、社会人としての教養を身につけさせることが求められている。

しかし、栄養士養成課程の学生において講義中の私語など社会的及び基礎的マナーなどの欠如、養成課程で学習しようという意欲の低下がみられはじめた。それだけでなく栄養士養成課程に入学したにもかかわらず栄養士の取得をあきらめる学生も少なくない。現在大学生全般の学力・資質の低下により各種対応がうたわわれているが、栄養士過程においてどのような対応をしていくかを考える必要がある。

さらに、栄養士養成校としては、大学全入時代が目

前となり、大学の生き残り及び更なる発展を考えて行かなければならない。さらに短期大学は専門学校との差別化をどうはかるかなど課題は多く存在しており、学生が何を求めて進学してきたのかを明らかにする必要がある。

そのため本研究は、受験理由や学科選択に関する調査と同時に、本学科の講義・実習は学生が求めているものを充足しているか調査することを目的におこなった。

## 2. 方法

### 2.1. 調査の時期と対象

調査は2014年5月に実施し、対象は宇部フロンティア大学短期大学部食物栄養学科の1年生30名におこなった。

### 2.2. 調査項目

(1) 入学動機及び進路決定時期

大田らが使用した項目を参考に作成をおこなった<sup>3)</sup>。進路選択については「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「全然あてはまらない」の4点法で調査をおこない、進路決定時期については、「中学校入学前～受験後」までの6段階を設定した。

#### (2) 学科選択理由と食生活意識

学科選択理由については、大田らが作成した学科選択理由を参考に全11問作成した。食生活意識については全9問作成した。各設問は「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「全然あてはまらない」の4点法で調査をおこなった。

#### (3) 卒業後の進路

卒業後の進路については、本学科卒業生の進路を5つに分類したものに加え「わからない」を含めた全6問作成し、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「全然あてはまらない」の4点法で調査をおこなった。

#### (4) 学校生活

学校生活では学生が「興味・関心があること」について全6問、「向上させたい能力や技術について」全8問、本学科のカリキュラムに沿って作成した。それぞれ「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「全然あてはまらない」の4点法で調査をおこなった。また、「大学生活で不安に思うこと」については8つの選択肢から該当するものの複数回答を可能とした。

#### (5) アンケートの集計及び調査結果の比較

アンケートの集計は、それぞれの項目に対して「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を合計し、回答者数から割合を算出した。

また、本調査で得られた結果はベネッセコーポレーションの報告<sup>2)</sup>、太田らが行った本短期大学の他学科の報告<sup>3)</sup>及び静岡大学で行われた調査結果<sup>4)</sup>と比較をおこなった。

### 3. 結果

#### 3.1. 入学動機と進路決定時期

入学動機の結果については表1、進路決定時期の結果について表2に示した。入学動機は「将来の仕事に役立つ勉強がしたい」「資格や免許を取得したい」「幅広い教養を身につけたい」の4つの項目で100%であった一方で、「すぐ働くのが不安」「自由な時間がほしい」

がそれぞれ48.3%、37.9%であった。進路決定時期は高校3年生頃が53.8%と一番高く、次いで高校2年生頃の23.1%、高校1年生頃の15.4%、中学生の頃と受験後3.8%の順であった。中学校入学前に進路を決定した学生はいなかった。

表1 入学動機

n = 29

		調査結果 <sup>#1</sup>	調査結果 <sup>#2</sup>
	%	%	全体 (%)
将来の仕事に役立つ勉強がしたいから	100	98.1	86.8
資格や免許を取得したいから	100	98.1	66.4
幅広い教養を身につけたいから	100	88.5	76.1
大卒・短大卒の学歴を取得したいから	82.8	82.7	67.2
専門的な研究をしたいから	75.9	78.8	77.5
すぐに働くのが不安だから	48.3	51.9	56.0
先生や親がすすめたから	44.9	30.8	36.3
自由な時間がほしいから	37.9	42.3	42.2

#1：大田三枝子 伊藤一統 朴信永，保育学科学学生の入学動機とプロフィールに関する研究，「人間生活科学研究」第44巻，2008，11-18

#2：ベネッセコーポレーション，進路選択に関する振り返り調査—大学生を対象として—（平成17年度経済産業省委託調査報告書）

表2 進路決定時期

n = 26

		調査結果 <sup>#</sup>
	%	%
中学校入学前	0.0	7.7
中学生の頃	3.8	25.0
高校1年生頃	15.4	23.1
高校2年生頃	23.1	19.2
高校3年生頃	53.8	25.0
受験後	3.8	0.0

#：大田三枝子 伊藤一統 朴信永，保育学科学学生の入学動機とプロフィールに関する研究，「人間生活科学研究」第44巻，2008，11-18

#### 3.2. 学科選択理由と食事観について

学科選択理由の結果については表3、食生活意識についての結果は表4に示した。学科選択理由は「食べることが好き」「料理することが好き」「食に関わる仕事がしたい」「資格を取得できるから」の4つの項目で100%を示したが、「他に付きたい仕事がないから」「ただなんとなく」はそれぞれ41.4%、6.9%であった。

食生活意識については「三食（朝・昼・夕）を食べるようにしている」「好き嫌いをせずに食べるように

している」「食事はみんなで食べたほうが楽しい」において96.6%、86.7%、86.2%と高い傾向がみられた。一方で、「食事を食べる方が落ち着く」「食事はたべられればなんでもいい」が31.0%と27.6%と低い傾向がみられた。

表3 学科選択理由 n = 29

	調査結果 <sup>#</sup>	
	%	%
食べることが好き	100.0	
料理することが好き	100.0	
食に関わる仕事がしたい	100.0	
資格を取得できるから	100.0	88.5
一生続けられる仕事だから	96.6	54.9
やりがいのある仕事だから	93.1	84.6
経済的に安定しているから	89.7	21.2
自分の特性を生かしたい	79.3	65.4
栄養士にあこがれていた	75.9	
周囲の人がすすめるから	51.7	21.6
他に付きたい仕事がないから	41.4	13.5
ただなんとなく	6.9	3.8

# : 大田三枝子 伊藤一統 朴信永, 保育学科学学生の入学動機とプロフィールに関する研究, 「人間生活科学研究」第44巻, 2008, 11-18

表4 食生活意識 n = 29

	%
三食(朝・昼・夕)を食べるようにしている	96.6
好き嫌いをせずに食べるようにしている	86.7
食事はみんなで食べたほうが楽しい	86.2
食べ物を買うときカロリーや原材料をみる	79.3
食事をするときによく噛むようにしている	79.3
時間がある時は料理をする	72.4
野菜を食べるように(1日約350g)している	65.5
食事はひとりで食べる方が落ち着く	31.0
食事は食べられればなんでもいい	27.6

### 3.3. 卒業後の希望進路

卒業後の希望進路については表5に示した。栄養士として働く病院・高齢者福祉施設等が高い傾向が見られたが、「わからない」と選択した学生が全体の約25%程度存在していた。また、希望進路の割合を見ると、栄養士が約7割で、事務職が約3割であった。

表5 卒業後の希望進路 n = 29

	調査結果 <sup>#</sup>	
	%	%
病院・高齢者福祉施設の栄養士	76.7	
幼稚園・保育園の栄養士	69.0	
食品会社	65.5	
事務職	31.0	
大学や他の学校などへの進学	24.1	18.4
わからない	24.1	

# : 大田三枝子 伊藤一統 朴信永, 保育学科学学生の入学動機とプロフィールに関する研究, 「人間生活科学研究」第44巻, 2008, 11-18

### 3.4. 学びたい内容及び向上させたい能力・技術

大学で学びたいことを表6, 向上させたい能力・技術については表7に示した。学びたい内容については「免疫系」が100%を示した。それに次いで、「食品衛生」「食品の機能性」が高い割合を示した。

また、向上させたい能力・技術は「調理技術」「献立作成能力」「社会人としてのマナー」で100%を示し、他の選択項目も約90%以上を示している。しかし、「パソコン技術」に関しては他の項目より低かった。

表6 大学で学びたいこと n = 29

	%
免疫系(食物アレルギーなど)	100.0
食中毒や品質管理など食品衛生	96.6
食品の機能性	93.3
食べ物と環境の関わり	89.7
体の中のしくみ	86.2
食文化(日本や海外)	82.8

表7 向上させたい能力・技術 n = 28

	%
調理技術	100.0
献立を作成する能力	100.0
社会人としてのマナー	100.0
物心への探求心	96.5
物事への対応力	96.4
文章力	96.5
食事について指導する力	89.3
パソコン技術	82.1

### 3.5. 大学生生活で不安に思う事

大学生生活で不安に思う事については表8に示した。

勉強について不安をもっている学生が約90%と高い一方で、進学や友人ができるかについての不安を抱いている学生は少なく、クラブ・サークルや1人暮らしへ不安をもっている学生はみられなかった。また、その他で年齢等の記載がみられた。

表8 大学生生活における不安 n = 29

	%
大学の勉強についていけるか	86.2
就職ができるかどうか	51.7
学費や生活費、奨学金など経済的な面	13.8
進学できるかどうか	6.9
友人ができるか	3.4
その他（年齢など）	3.4
希望のクラブ・サークルに入れるか	0.0
1人暮らしがきちんとできるか	0.0

#### 4. 考察

大学全入時代が目前となり、大学の生き残り及び更なる発展を考えると同時に、学生の学力及び資質の低下に加え社会的マナーの低下に対する対策を考えていく必要がある。そのため、本研究では本学の受験理由や学科選択に関する調査及び本学科の講義・実習が学生の学びたい内容及び向上させたい能力・技術を充足しているか調査をおこなった。

本学科への入学動機は、「将来の仕事に役立つ勉強がしたい」「資格や免許を取得したい」「幅広い教養を身につけたい」が100%ととても高く、ベネッセコーポレーションの報告<sup>2)</sup>と比較してみると、教養及び資格・免許の項目でそれぞれ約20%~30%と大きな差がみられた。よって、本学科への入学動機としては教養を身に着けられることや資格・免許取得できることが大きな要素を占めていると考えられる。また、本学への入学生は他の大学生と比較し、学歴を取得したいと思っているという結果が得られた。これらのことから、専門学校と差別化を考えていく上で、本学では「教養を身に着けることができること」や「短大卒の学歴を取得できること」等を高校生に発信していくことが重要となってくる可能性が考えられた。

本学科への入学決定時期は、高校3年時が約半数を占めており、他の学科に比べて進路決定が遅かった。これは、入学動機として先生や親の助言と回答していた学生が約半数みられたことが影響していると推察さ

れた。そのため、入学決定時期を早めるためには、高校生自身がオープンキャンパス等で本学を知る機会を増やす等、高校生への情報発信を行っていく必要があると考えられる。また、先生や親の助言が入学動機へ関与していることから、高校生だけでなく、先生や親等への情報発信が大学の生き残りを考えていく上で、重要となってくると考えられる。

入学生が本学科を選択した理由としては「資格・免許取得」だけでなく、「食を食べることや料理が好き」等の項目が高い割合を示し、食に興味を持っている学生が多くみられた。また、三食食べている学生や好き嫌いせず食べている学生がそれぞれ80%を超えており、食生活意識が高い傾向がみられた。このことから、本学科を選択した学生は、食生活意識が高いこと可能性が推察された。卒業後の卒業後の希望進路としては病院・高齢者施設・保育所等の栄養士として働きたいと回答した学生が約7割で、事務職が約3割と近年の本学科の就職状況と同程度の割合であったが、資格・免許を取りたいと入学した学生が100%であったことや、調査時期は5月と入学して1ヶ月程度しか経過していないのにも関わらず、3割の学生が事務職を希望するようになっているということが明らかになった。そのため、入学後の意識変化について調査を行っていく必要がある。

大学で学びたいこととして、「免疫系」については100%を示した。これは、食物アレルギー問題等を報道で目にする機会の増加が影響していることが推察された。向上させたい能力・技術としては、本学科で開講している実習科目で身につけられる「調理技術」や「献立作成能力」を向上させたいと全員が答えていた一方で、「パソコン技術」については他の技術・能力より若干低かった。これは栄養士という職業で求められる能力・技術と「パソコン技術」が結びついていないためと考えられる。しかし、栄養士業務でパソコンを使用する機会が多いため学生にその重要性を伝えていかなければならない。

大学生生活上の不安として、勉強について不安を抱いている学生が、他大学<sup>4)</sup>では70%であったのに対して、本学科は86.2%と多かった。その一方で、友人や1人暮らし等への不安を抱いている学生が、他大学<sup>4)</sup>ではそれぞれ約40%、約20%であったのに対して、本学科はそれぞれ3.4%、0%ととても少なかった。これらは、本学の学生の多くが自宅から通学しているため1人暮らしの不安も少なく、県内の大学であるために



友人作りにおける不安も少ないと考えられた。しかし、調査時期が5月と入学してから1カ月経っているために友人関係ができた後の調査であった可能性も考えられる。そのため、今後は調査時期を早めておこなう必要がある。これらの大学生活上の不安を解消するために、本学ではチューター制やオフィスアワー制度を導入しているが、今後は不安を解消するために学科だけでなく学生支援課等の職員と連携し、更なる充実を図っていく必要がある。

本調査により本学科の入学生の受験理由、学科選択理由や入学決定時期等の傾向を明らかにすることができたと考えられる。しかし、対象が2014年度入学生と限られているため、今後この調査を継続しておこなっていききたい。

## 5. まとめ

2014年度食物栄養学科の入学生を対象に、受験理由や学科選択に関する調査と同時に、本学科の講義・実習は学生が求めているものを充足しているか調査を実施し、以下の結果が得られた。

- 1) 入学動機は、「資格・免許取得」「幅広い教養を身につけたい」等が高い割合を示した。また、入学決定時期は高校3年生頃が約半数占めていた。
- 2) 学科選択の理由は、「食べることが好き」「料理することが好き」「食に関わる仕事がしたい」「資格が取れる」の4項目で100%であった。
- 3) 卒業後の進路としては、栄養士として働きたい学生が約7割、事務職が約3割であった。
- 4) 本学科で学びたい内容は、「免疫系」、「食品衛生」、「食品の機能性」の順に多く、身につけたい能力としては「調理技術」「献立作成能力」「社会人としてのマナー」が最も多かった。
- 5) 大学で不安に思うこととして、入学生の90%以上が「勉強についていけるか」と回答していた。

## 6. 参考文献

- 1) 町田和恵, 大見奈緒子, 花木秀子, 油田幸子, 東博文: 教育介入による学生の専門職における管理栄養士・栄養士の職業観への影響, Bull. Kagoshima Pre. College, 61 45-59, 2010
- 2) ベネッセコーポレーション: 進路選択に関する振り返り調査—大学生を対象として— (平成17年

度経済産業省委託調査報告書)

- 3) 大田三枝子 伊藤一統 朴信永: 保育学科学生の入学動機とプロフィールに関する研究「人間生活科学研究」第44巻, 11-18, 2008
- 4) 静岡大学: 新入生のアンケートの結果から [http://www.shizuoka.ac.jp/znc/\\_userdata/2013p16.pdf](http://www.shizuoka.ac.jp/znc/_userdata/2013p16.pdf) #’ 2015年1月23日参照

